

反古裏之書第三冊

URL	http://hdl.handle.net/10114/4963
-----	---

天
地
人
三
才
圖
說
卷
上
一



一 補方二言曲

一 新ありの事

一 心腹あつゝまかりし事

一 ちりねとみりねも月いふ事

一 人の身にかゝるにふ事

一 吾らといふ事

書名

一言第壹回
元安種鳳

一 ぬき けしきふき 入せりき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一 ぬき けしきふき

一三言はふり事

一四言はつり事

一曲とつり事

一五言はつり事

の字

一六言はつり事 五言はつり事

七言はつり事 八言はつり事

九言はつり事 十言はつり事

十一言はつり事 十二言はつり事

十三言

一十四言はつり事

十五言はつり事

十六言はつり事

十七言はつり事

一十八言はつり事 柏崎 三景唯心

み我友は 是也

一 柏子さうさうさうさう云事 柏子

昔は、この所とやの位、さうさう

一 柏子のけいふ 柏子のさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

能之至日二

一能く下をきくこと

一々とのふらぬの事

一而く之く之方里かと方里之く之也

一能くくもてく事秘事也

一箇字に筆

一うきの能くよくわりのやう秘事也

一ツ^{ちふ}きうきうあてあきうり^{ちふ}ふ^{ちふ}俄^{ちふ}少^{ちふ}あ^{ちふ}り

時能とるなり美なり事

一首、陽、初春、みづ

一と知ふ人のいふ芝居とよく相合とて

中華書局

一夫人、涉前、能之、先、而、官、而、重、而、年

ふに何くは年とふ事とふ事と

- 一 風をさくらそ神と也 神くらふ事
- 一 虎破急（虎破急）九阪大事もゆるう事也
- 一 けくらふ事くらふ事くらふ事
- 一 くらふ事くらふ事
- 一 高流（高流）くらふ事
- 一 高曲（高曲）くらふ事
- 一 くらふ事くらふ事くらふ事

- 一 けくらふ事くらふ事
- 一 けくらふ事くらふ事
- 一 くらふ事くらふ事
- 一 くらふ事くらふ事
- 一 くらふ事くらふ事
- 一 くらふ事くらふ事
- 一 くらふ事くらふ事

一々 ちかみの事

一切字の事

一々と二切事

一やすし字ニよりより字の(字)の事
人の前をさうあつとくさう若くさぬ
事

一うさのういふ事のういふ事

のういふうさかたのういふ事
さういふの事

一ういふうさうこのういふ事
さういふの事

一ういふうさうこのういふ事
のういふうさうこのういふ事
のういふうさうこのういふ事
のういふうさうこのういふ事

一 世にうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

五甲の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 下を也、何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

一 何れにうゝゝゝの福の事

とらふ

毛端松珍抄

目録序の事 二

能とつた事

能とつた事

能とつた事

能とつた事

能とつた事

能とつた事

能とつた事

能とつた事

能とつた事

能とつた事

能くしるべし 破産 能く事なり
能くしるべし 破産 能く事なり
能くしるべし 破産 能く事なり

能くしるべし 破産 能く事なり
能くしるべし 破産 能く事なり
能くしるべし 破産 能く事なり

能くしるべし 破産 能く事なり
能くしるべし 破産 能く事なり
能くしるべし 破産 能く事なり

ちてらぬ事なりて人の心さうさうと
さうのさうに心から一ち事なりて
のさうさうに心から一ち事なりて
さうの事、心からさうのさうの
さうの事、心からさうのさうの
信のさうさうの事、心からさうの
事、車のさうさうなりて、一切の
事、心からさうの事、心からさうの
心からさうのさうのさうのさうの
心からさうのさうのさうのさうの
心からさうのさうのさうのさうの

一書片一

一二曲三曲、心から二曲、心から
心からさうのさうのさうのさうの
心からさうのさうのさうのさうの

一 形神一也事也はるる此のりる

一 心そらるる吾の事なる事

一 ありて神のせう 脈のすゝのせう

一 一なりて神のやうなる事

一 神神のせう

一 本うすゝなる事 一 ちなる事

一 一なりて神のやうなる事

一 一なるのりる

一 一なるのりる

一 一なるのりる

一 一なるのりる

一 一なるのりる

修羅

一 一なるのりる

一 ちとていへ

一 ちとていへ

一 ちとていへ

一 ちとていへ

一 ちとていへ

一 ちとていへ

一 ちとていへ

一 ちとていへ

一 ちとていへ

女に方の一ち事

方一太女の事

一 ちとていへ

狩衣の事

一 ちとていへ

糸五郎の事

一 冬

寒のやう

一 雪のやう

一 雨のやう

一 風のやう

一 雲のやう

一 月のやう

一 星のやう

一 花のやう

一 鳥のやう

一 虫のやう

一 魚のやう

一 草のやう

一 木のやう

一 石のやう

一 常々ある事

一 常々ある事

一 常々ある事

一 常々ある事

一 常々ある事

一 常々ある事

三 序

一 常々ある事

一 常々ある事

一 常々ある事

一 常々ある事

一 常々ある事

- 一 つのちうちのつらうとちうちの事
- 一 地のつらうと曲のつらう
- 一 ちのちの事
- 一 一切のつらうとちのつらう
- 一 ちのちの事
- 一 ちのちの事
- 一 ちのちの事
- 一 ちのちの事
- 一 ちのちの事
- 一 ちのちの事

一 つのちの事

一 ちのちの事

一 ちのちの事

ちのちの事

一 ちのちの事

一 舞臺の柳子つらの事

一曲舞臺の用ゝしく、端柳子肝也

一 扇柳子きく事也、くあくるくあくる

つたうやう、打事、教とありくう

くす世との柳子、くく、くく、くく

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

一 舞臺の柳子、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

く、く、く、く、く、く、く、く、く、く

一書柳子才一

一柳子と云事肝常也云云大に柳子
の云る及肉骨と云に柳子ハ骨也柳子
諸といふし云ふのこいし也云ふ
と云後と云事柳子也馬よのか
者の云つたことつて云て云ふ云と云

と云る也云事ハ大に云ふ也
云ふ云と云事柳子と云
我物と云事云と云事云と云事
云と云事云と云事云と云事
又云柳子と云事云と云事云と云事
云と云事云と云事云と云事

一柳子諸柳子と云の事

一 面（こ）やう

一 ううき（り）の章

一 ううい（本）うり ちんく（り）の（り）やう

一 女（方）きり（方）きり

一 物（の）こやう

一 ち（の）りやう

一 面（こ）に（り）の（り）やう（り）やう

一 ち（の）りやう

一 ち（の）りやう

一 う（り）やう ち（の）りやう

一 ち（の）りやうの（り）やう

一 面（こ）やう

一 う（り）やう

一 ち（の）りやう

一 とうめいなる事

一 ちの事

一 ちの事

一 つとむる事 ことしとんとつと

一 一の事 一物の救

一 修成の事

一 ちの事

一 一の事

一 一の事

一 一の事

一 一の事

一 一の事

一 一の事

一 一の事

うひてちと面をうらめし
一そてう面をうらめし
回事也
一うのちをうらめし

目録 二書面

一、一書の種二種、後、八、柳子、と

うひてちと面をうらめし
一そてう面をうらめし
回事也
一うのちをうらめし
一、一書の種二種、後、八、柳子、と
うひてちと面をうらめし
一そてう面をうらめし
回事也
一うのちをうらめし

[illegible]

のねふち 柳子うくくろの柳子
 ち柳子 柳子 柳子とけりうを
 中いりしのもふつあひうを
 ちうちう ちう二寸のうへひけ
 打琴今いこのちうたのちう
 皮肉背のちう 柳子ちうちう
 ちうちうあり 書面のちうちうの茶

とらぬわづてらぬ時をいふと
てふ所のいふてあふ花名のあふ
あふにうひわとあふとあふてあふ
あふとあふとあふとあふ
あふのいふとあふとあふとあふ
あふとあふの二道とあふとあふ
あふとあふ

秘

一 柳子ニウキハルハ事

一 位高ルハ事 能く時

一 柳子ニウキハルハ事 位高ルハ事

一 柳子ニウキハルハ事

一能くも書曲かともうさる事ありき

事それともうさる事

一中なる事なりき事

一人所よりかつて四方へ散らちす是
中なる理也

一能くも書曲かともうさる事なりき
物事なりき事なりき事なりき

ある事なりき事

一書曲なりき事なりき事

一而もなりき事

一而もなりき事なりき事

一能くもなりき事

一少なりき事なりき事鬼にちやなりき事
ありき事なりき事

一 物取之事

一 男取之事

一 女取之事

一 ユニカニカキタル能又大カリニカキタル

一 能之事

一 能之事

一 夫人ノ西前ニテ候ニサセラル能ノテ

一 タテノ事

一 神之事

一 男カカリ人庭ノ木トト用ニ事

一 女ノタイハ一ノ次方ノ事

一 女ノ事

毛端新珍抄

目録 章 事

終 事

勢 事

籍 事 月 事 終 事

事 同 二 事 終 事 終 事

う 終 事 終 事 終 事

終 事 終 事 終 事

う 終 事 終 事 終 事

の 事 終 事 終 事

う 終 事 終 事 終 事

の 事 終 事 終 事

う 終 事 終 事 終 事

の 事 終 事 終 事

う 終 事 終 事 終 事

の 事 終 事 終 事

地よりふくまへる事 先方角と云
海事 善く候と云ふ事 武家
かてけり事 一より一 味方 血の
能く事 統括するの事 方角能く
らきやうと云ふ事 一より一
風流の能く事 一より一 風流能く
馬より 人の事 一の能く事

一より一の能く事 一より一 風流能く
天竺の事 其の能く事 一の能く
男衆の事 一の能く事 一の能く
地より一の能く事 一の能く事 一の能く
一の能く事 一の能く事 一の能く
風流の事 一の能く事 一の能く
一の能く事 一の能く事 一の能く

ありし事なりし事 神のようなりて
この前後の事 間違ひてなりしは
はききや 神の事なりし事 神の事
半 神の事なりし事 神の事
や 物なりし事なりし事 神の事
この事 神の事なりし事 神の事
利なりし事なりし事 神の事

ありし事なりし事 神のようなりて
この前後の事 間違ひてなりしは
はききや 神の事なりし事 神の事
半 神の事なりし事 神の事
や 物なりし事なりし事 神の事
この事 神の事なりし事 神の事
利なりし事なりし事 神の事

かなうなり能くあるにこそなりて
 ますなりて能くこそありて
 かなうなり能くあるにこそなりて
 ますなりて能くこそありて
 かなうなり能くあるにこそなりて
 ますなりて能くこそありて

いふ所の所あるに時をうらやま
れどもけつううらやま分家のや
うへそあるをうらやまのふく
甚くまのあつさううらやま
是ううらやまのふくや
ふくはふくそのふく

多くをうくらやむ事 いたせり
なり事 のちうばのこころい
のうし事 いたせり いたせり
事 人の母より いたせり
よるにあり 一泊二様 三々事
扱より いたせり 扱より いたせり
とて いたせり いたせり

但一泊あり 一切をいひしめ 秘事
三三事なり 三三事なり 三三事なり
いたせり いたせり いたせり
いたせり いたせり いたせり
いたせり いたせり いたせり
いたせり いたせり いたせり
いたせり いたせり いたせり
いたせり いたせり いたせり

日ありありいふあつてもうすの
今から世のうらやま字今
そと人よりいふも抑さの
ばくもく調子とくそとふ
りの調子とくそとふ

道風自覚なりつた

金雲八郎

大東照業

金春家所出於秦河勝歷
代秘曲傳家督一人而其他廢
子傍孫遂不能窺闥奧於
萬一矣雖然如是兄七郎
戊勝不幸而早世故堯父家

傳之秘奧相續而欲傳之
子々孫々而以張萬世悉家
傳秘曲教授於我所令相
傳也今又汝家傳秘曲不
遺所令教授也莫令斷

絶矣

的曆二年 丙申

三月廿一日

六十九日

金書七十九日

集

金書八十九日





